



ぱーとなー

2010年5・6月 Vol.100

耳原総合病院の理念 ◎安全・安心・信頼の医療 ◎無差別平等の医療 ◎患者負担の少ない医療 ◎地域とともに歩む専門職の育成

55院所 68名様参加

盛会でした！！地域連携を勧める会



去る5月15日（土）耳原総合病院『地域連携を勧める会』が午後4時より、リーガロイヤルホテル堺にて開催されました。

当院副院長 齊藤和則の挨拶により開会。齊藤和則より、今年60周年を迎えた耳原総合病院の歴史や、現在の医療情勢、総合病院建替えに向けて地域医療連携が病院運営のキーとなることなどお話をさせていただきました。

講演会では、最初に、泌尿器科部長 田原秀男より『在宅・診察室での泌尿器疾患に関するポイント』次に、消化器内科部長代行 岩谷太平より『当院における胃の内視鏡的粘膜剥離術（ESD）の導入』のプレゼンテーションをさせていただきました。

プレゼンテーション後は、医療法人同仁会常務理事であり、新病院の建設委員会事務局長である穴井勉より耳原総合病院建替えに向けたご挨拶をさせていただき、4月より、総合病院事務長に就任いたしました、近藤聡よりの閉会のご挨拶で無事終了いたしました。

講演会後の懇親会では、ご参加いただきました先生方をはじめ各職種の方々と、当院より参加いたしました、各科医師、看護師、MSW、検査技師、放射線技師、薬剤師、理学療法士、事務と意見交流をさせていただきました。会場内は和やかな雰囲気にも包まれ、他院の先生方同士でも懇談されていました。

今後のプレゼンテーションの課題のご要望や、当院に対するご意見等いただき大変ありがとうございました。今後の参考にさせていただきたいと思います。

多数ご参加いただきありがとうございました。

子宮頸部がん予防ワクチンの案内

子宮頸部がんの予防ワクチン接種が可能となり、当院でも4月より開始いたしました！！

産婦人科

きっかわ とおる
吉川 徹



●子宮頸部がんとは？

国立がんセンターの資料によると、子宮頸部がんは、25 歳ぐらいから発症する方が増え始め、40 歳前後でもっとも多くなります。若い方の発症の多いことが特徴です。

●原因は感染症！

子宮頸部がんは、発がん性ヒトパピローマウィルス(HPV)の感染によって発症する 경우가ほとんどです。HPV は性行為により感染し、多くの女性が一生のうちに一度は感染すると言われています。しかし、HPV に感染した人がすべて子宮頸部がんになるのではなく、多くの場合には感染は一時的であり HPV は自然に排除され治癒します。排除されずに長期間の感染が続くと徐々に感染された細胞が異型細胞となり、数年から十数年かけて子宮頸部がんを発症するケースが出てきます。さらに、昨今の性交渉開始時期の若年化により、子宮頸部がん発症のさらなる若年化がおきてきます。また、HPV に対しての抗体は作られにくく、繰り返し感染するケースも知られています。

●ワクチンの効果について

HPV には多くのタイプがありますが、その中で発がん性をもっているのはごく一部です。中でも HPV16 と 18 が発がん性 HPV 全体の 6 割以上を占めています。今回、認可されたワクチンは、その HPV16 と 18 に対する抗体を作ります。それにより、子宮頸部がんの 60～70%を防ぐことができるといわれています。しかしこのワクチンは、現在感染している状態の人の HPV を駆除することはできませんし、病状を遅らせるということもできません。先ほども述べたように自然排除されることもありますので再感染を防げることで、また、HPV16 に感染していた場合でもさらに HPV18 に感染する可能性もあるのでそれを防ぐこともできます。既感染の人に対してワクチン接種を行っても副作用が強く出ることはないので、現在感染している可能性がある人にも接種することが勧められます。

●ワクチン接種推奨年齢について

第一に、性交経験の可能性が低く HPV に未感染と考えられる 10～14 歳がもっともワクチン接種を推奨される年齢です。第二に、子宮頸部がんのリスクや HPV 感染の危険性の高い若年者～中年者の 15～45 歳が推奨です。また、45 歳までの女性に対しての有効性が示されており、55 歳までの女性に対する安全性が確認されています。なお、高齢者への安全性や有効性は確立されていない状態です。

●ワクチンは 3 回接種が必要です

問診票を書いていただき、体温の異常がなければワクチンを筋肉注射します。1 回目を接種してから 1 ヶ月後に 2 回目を、さらに 1 回目から 6 ヶ月後に 3 回目を接種します。ワクチンは 1 回だけでは HPV に対する抗体が十分にはできません。そのため 3 回の接種が必要となります。

●子宮がん検診をお勧め下さい

ワクチンを接種したらもう子宮頸がんにならないかというとそうではありません。わずかながら HPV 以外が原因の子宮頸がんも存在するため、早期発見のために子宮頸部がん検診を定期的に今後も受ける必要性があります。また、その機会に卵巣がんのチェックや乳がん検査なども一緒に受けていただくことをお勧めします。

◆ 子宮頸がん予防ワクチン(サーバリックス)の受け方 ◆

接種対象：10 歳以上の女性

費用：一般の方 (1 回) 15,000 円

みみはら健康友の会会員 (1 回) 13,500 円

※このワクチンは、3 回接種していただかなければ効果が期待できません。

※ワクチン入荷に数日かかります。申し訳ありませんが、接種希望日の 1 週間ぐらい前にお電話をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

※中学生までの方は、みみはら高砂クリニック・小児科でも接種することができます。

お問合せ：耳原総合病院 072-241-0501 (代表)

みみはら高砂クリニック 072-241-4990 (代表)

「子宮頸がんワクチン予約の件」とお伝えください。

お問合せ時間：月曜日～金曜日

午後 2 時～午後 4 時 30 分 (上記以外の時間は診療中のため、ご遠慮ください)

※お問い合わせ、お申込は患者様よりお願いいたします。

造影剤使用の検査を予約する際の注意事項



放射線科 いわもと たくや
岩本 卓也

近年 CT、MRI の性能の向上と機器数の増加が著しく、それとともに造影剤使用数も増えてきています。造影剤使用により診断的情報量が増加しますが、その反面造影剤の副作用対策が重要になってきています。

副作用は大きく2つに分けられます

①アレルギー反応

一つにはアレルギー様反応があります。造影剤の使用量には依存せず、予測が困難です。ただ危険因子には喘息や造影剤副作用歴、心疾患などがあり、検査前にチェックすることが重要です。

②腎機能低下

もう一つが、造影剤腎症などです。造影剤の使用量に依存し、腎機能低下や脱水が危険因子となります。腎機能低下はクレアチニン(Cr)値が参考になりますが、最近では腎機能の低下をより正確に反映する指標として推定糸球体濾過量(eGFR)を用いるようになりました(別紙1参照)。Cr が同じ 1.2 でも、20 歳の男性では eGFR は 67ml/min ですが、80 歳の女性では 33ml/min と著明に低下していることがわかります。別紙の CKD の病期分類で 4 期以上(eGFR で 30 未満)は造影剤検査の原則禁忌と考えられますが、問題は 3 期(eGFR で 30 から 60 未満)の被験者です。検査にあたっては造影剤腎症のリスクに対して十分な説明と同意が必要となります。(資料同封しています)

注意事項！

●冠動脈 CT について…

よりよい画像を得るために被験者の心拍数が 70/min 以下であることが望ましく、そのためには頻脈の被験者には検査前にβブロッカーの投与が必要となります。その投与に関しては、現在マニュアルを作成中です。出来上がり次第お知らせいたします。

●糖尿病薬について…

ヨード造影剤の投与により一過性の腎機能低下をきたす恐れがあり、ビッグナイト系糖尿病薬（塩酸メトホルミン、塩酸ブホルミン等）を服用している患者は腎排泄が減少することで血中濃度が上昇するため、乳酸アシドーシスが現れる恐れがあります。したがって、ビッグナイト系糖尿病用剤は造影前より服用を中止し、腎機能が正常化してから服用を再開することが望ましいとされています。（別紙2に主なビッグナイト系糖尿病薬を記載しています）当院では原則造影剤検査2日前に中止し、検査後2日以降に再開することとしています。（資料同封しています）

参考文献：

1. 田村昭三 “造影剤のリスクマネジメント” CLICIAN vol.56 no.582
- 1、 笠原正登 “造影剤腎症—造影剤が腎臓に及ぼす影響とその対策—”
第45回日本医学放射線学会秋季大会
- 2、 ヨード造影剤とビッグナイト系糖尿病薬との併用注意について
(社)日本医学放射線学会 医療事故防止委員会
- 3、 片山仁、山口昂一 “X線造影剤 Safety Review 第2版”

耳原総合病院 地域医療室

直通電話：072-241-0324

直通FAX：072-241-0208

- 1 「診察・入院申込書」「検査申込書」をFAXいただくか
お電話でご予約をお取りいたします。
※折り返しFAXにて予約票をお送り致します。
- 2 予約当日、患者さまが受診の際、
①保険証②診療情報提供書③上記予約票
をご持参いただきますようお願いください。